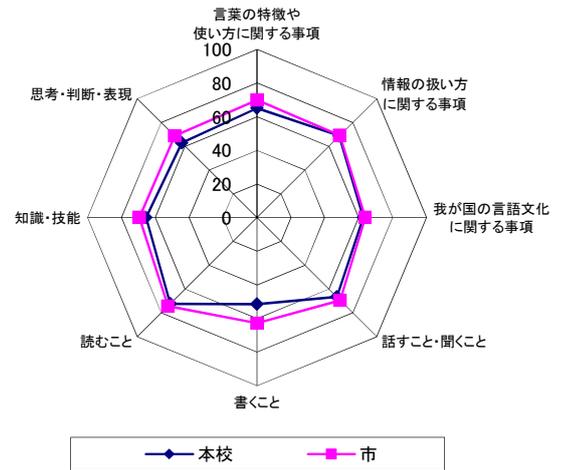


# 宇都宮市立晁宝小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	65.1	69.9	72.3
	情報の扱い方に関する事項	68.7	69.2	73.0
	我が国の言語文化に関する事項	62.7	63.8	66.0
	話すこと・聞くこと	66.7	69.5	71.5
	書くこと	51.5	62.8	67.1
	読むこと	72.4	74.4	73.7
観点別	知識・技能	65.5	69.4	71.9
	思考・判断・表現	62.9	68.8	70.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

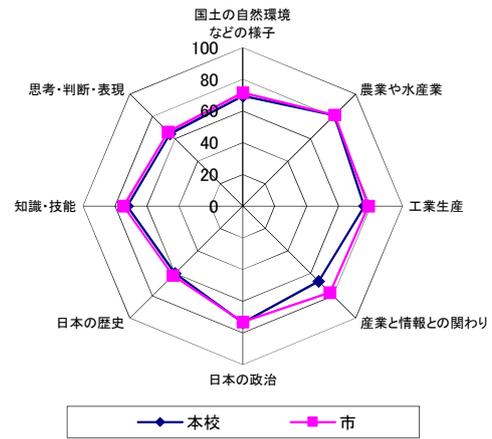
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○敬語について理解し正しく使えるかについての問題の平均正答率は、市の平均正答率より高かった。</p> <p>●第6学年配当漢字を読む問題は、いずれも市の平均正答率より低く、課題があった。</p> <p>●文と文の接続の関係についての問題の平均正答率は、市の平均正答率より低く、課題があった。</p>	<p>・新出漢字の読み方や字形に注意しながら、繰り返し練習して漢字を覚えることを、引き続き朝の学習や家庭学習で取り組ませる。また、文章を書く際には、漢字のもつ意味を考えながら漢字を正しく使ったり、学習した漢字を意識して使ったりすることが習慣付けられるよう全ての教科の授業において指導していく。</p> <p>・文と文との接続については、作文指導の際に適切に接続詞を使うことに慣れるよう指導していく。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書く問題の平均正答率は、市の平均正答率より高かった。</p> <p>●情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理する問題の平均正答率は、市の平均正答率より低かった。</p>	<p>・いくつかの資料の中から必要な情報が書かれている資料を選ぶことができるよう、授業の中で、「要約してまとめる力」や「物事を比較・関連付けて考える力」の育成を目指した学習活動を行っていく。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●漢字や語句の由来についての問題の平均正答率は、市の平均正答率より低く、課題があった。</p>	<p>・新出漢字や言葉の学習をする際には、漢字辞典を活用して漢字の成り立ちや部首・つくりの持つ意味にもふれさせる場面を増やしていく。また、部首・つくりの学習で、テーマを決めて漢字を集める活動等を取り入れ、児童が漢字に興味・関心を持って学べるようにする。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均よりも低い。</p> <p>●自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることについての問題の平均正答率は、市の平均正答率より低く、課題があった。</p>	<p>・意見や提案など自分の考えを話したり、必要なことを聞き取ったりする活動や自分の立場を明らかにして考えを伝え合う活動を、各教科の授業において発達段階に応じた言語活動となるよう指導していく。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均よりも低い。</p> <p>○情報と情報の関係について理解し、目的に応じて文章を簡単に書く問題において市の平均正答率より高かった。</p> <p>●記述式の問題において、市と比べ無記入の児童の割合が高く、課題があった。</p>	<p>・指定された段落構成で文章を書くことができるよう、教科書を活用して段落をつくることの意義や目的を確認したり、文章を視写する活動を取り入れたりとしながら、段落の「型」を理解させる。基本的な構成に沿ってまとまりのある文章を書く技能を身に付けさせることができるよう、一人一人の子どもの実態に応じたきめ細やかな支援・指導を引き続き行っていく。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○物語文の内容を読み取る問題で、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げる問題の平均正答率は、市の平均正答率より高かった。</p> <p>●説明文の内容を読み取る問題の平均正答率は、市の平均正答率より低く、課題があった。</p>	<p>・説明文については、段落や文章のまとまりを意識させたり、何が書かれているかを読み取ったりする学習を今後も十分に時間をかけて指導していく。また、どの段落に書かれている内容なのかを明確にして感想等を伝え合うようにさせることで、内容のまとまりを正しく捉える力を育てる。</p>

# 宇都宮市立晁宝小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	69.6	71.6	67.5
	農業や水産業	81.1	81.5	82.1
	工業生産	76.1	78.7	70.8
	産業と情報との関わり	67.2	77.2	68.2
	日本の政治	73.5	73.1	77.9
	日本の歴史	60.1	62.0	65.8
観点別	知識・技能	72.2	74.6	74.5
	思考・判断・表現	64.5	66.2	65.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

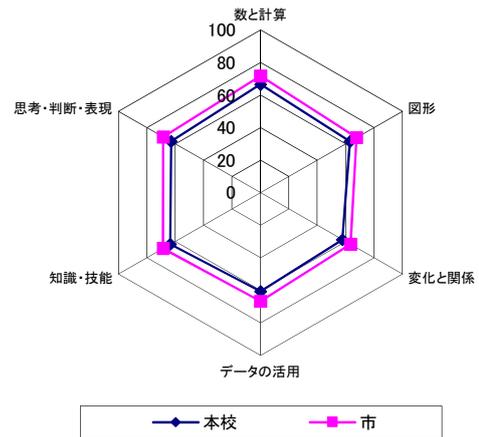
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<p>平均正答率は、市の平均よりもやや低い。</p> <p>○日本周辺の海洋名を問う問題では、正答率86.6%と、市を0.9ポイント上回った。</p> <p>○韓国の国旗と位置について理解しているかを問う問題では、正答率76.1%と、市を3.4ポイント上回った。</p> <p>●日本の主な地形の名称と位置の理解をもとに、地図を読み取っているかを問う問題では、正答率29.9%と、市を7.2ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国名や海洋名、周辺の国や日本の領土の学習では、用語を押さえるだけではなく、地図帳や資料集を積極的に活用していく。</li> <li>・日本の主な川の名称を答える問題に課題があった。知識を身に付ける際に、単に言葉のみを覚えさせるのではなく、言葉が表す意味や場所などを資料集や地図帳を使って確認することで、活用できる知識として身に付けられるようにしていく。</li> <li>・学習内容と日常生活を結び付け、自分事として捉えながら、考えを表現する活動を今後も継続していく。</li> </ul>
農業や水産業	<p>平均正答率は、市の平均よりもやや低い。</p> <p>○カントリーエレベーターについて理解しているかを問う問題では、正答率85.1%と、市を1.6ポイント上回った。</p> <p>●都道府県の位置と農産物の産地の理解をもとに、適切な地図を判断しているかを問う問題では、正答率76.1%と、市を3.5ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の読み取りをもとに考え、身に付けた知識を生かして選択する問題に課題が見られた。学んだことを白地図上に表したり、表やグラフを実際に作成したりする活動を通して、知識を表現する技能を身に付けさせていく。</li> <li>・カントリーエレベーターに関する問題の正答率が高かった。今後も、施設の名称だけでなく、その役割についても資料や動画等活用しながら理解を深めさせていく。</li> </ul>
工業生産	<p>平均正答率は、市の平均よりも低い。</p> <p>○自動車工場の作業工程を問う問題では、正答率92.5%と、全国を4.7ポイント上回った。</p> <p>●キャリアカーと船に着目して、自動車の出荷の工夫を捉え、表現する問題では、正答率が58.2%と、市を4ポイント下回った。</p> <p>●日本の輸出品の資料を読み取っているかを問う問題では、正答率77.6%と、市を3.9ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識をもとに、資料を比較して考える問題に課題がみられた。2つの資料をじっくりと読み、何がえてくるのか考えさせるだけでなく、見えてきた事実が既習の知識とどう結びつのかを考えさせることで、資料活用の技能を高めていく。</li> <li>・日本の輸出入についての基本的知識を問う問題に課題が見られた。今後は、単元ごとの重要語句の確認やノートまとめ、ミニテストの継続的な実施などを行い、基礎基本の確実な定着を図っていく。</li> </ul>
産業と情報との関わり	<p>平均正答率は、市の平均よりも低い。</p> <p>○メディアの特徴を理解しているかを問う問題では、正答率86.6%と、全国を0.9ポイント上回った。</p> <p>●資料に着目して、コンビニエンスストアの発注システムについて捉え、判断しているかを問う問題では、正答率47.8%と、市を15ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報化がますます進展していく中で、それぞれのメディアの特徴を捉えながら、それぞれの良さや課題に気付かせるような指導を今後も継続していく。</li> <li>・調べたことからどんなことが分かるのか考察する問題に課題が見られた。資料に書かれている情報を正しく読み取り、そこからどんなことが言えるのかを考えさせていくことで、資料活用の技能を高めていく。</li> </ul>
日本の政治	<p>平均正答率は、市の平均よりもやや高い。</p> <p>○図に着目して、国民による政治の仕組みを判断しているかを問う問題では、正答率55.2%と、市を5.2ポイント上回った。</p> <p>●基本的人権の尊重について、生活の中の具体的な事例をもとに判断しているかを問う問題では、正答率80.6%と、市を4.2ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的人権の尊重に関する問題に課題が見られた。日本国憲法の三つの原則についてよく押さえ、それぞれの言葉と自分たちの生活との関連を考えさせていく。</li> <li>・政治の仕組みについては自分たちの生活から少し距離があると感じているため、実感を伴った理解が難しい。そこで、今後も政治の仕組みが自分たちの生活にどのような影響を与えているのかなど、具体的な事例で考え、理解できるように指導する。また、その際には、写真資料や図表を効果的に活用し、実感的な理解を図れるようにする。</li> </ul>
日本の歴史	<p>平均正答率は、市の平均よりもやや低い。</p> <p>○鎌倉時代の争いについて理解しているかを問う問題では、正答率65.7%と、市を2.9ポイント上回った。○江戸時代の大名支配について問う問題では、正答率71.6%と、市を4.9ポイント上回った。</p> <p>●大和朝廷について理解しているかを問う問題では、49.3%と、市を15.4ポイント下回った。</p> <p>●室町幕府の文化について理解しているかを問う問題では、正答率55.2%と、市を2.9ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史用語を正しく身に付けるため、教科書をもう一度復習したり、練習問題を解いたりすることで、基礎・基本の定着を確実に図る。</li> <li>・それぞれの時代の特徴を理解し、自分の言葉で表現できるようになるためには歴史を大観する力が必要になる。そのため、それぞれの時代ごとの特徴をまとめるだけでなく、大きな歴史の流れを捉え、それぞれの時代のつながり、共通点や相違点を考察し、現代の私たちの生活とも比較することで、その時代がもつ特色や歴史的な意味を浮かび上がらせ、時代を適切に捉える目を育てていく。</li> </ul>

# 宇都宮市立晁宝小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	66.6	71.8	76.2
	図形	63.0	67.7	67.8
	変化と関係	57.7	63.4	62.7
	データの活用	60.7	66.7	61.5
観点別	知識・技能	63.5	68.6	70.7
	思考・判断・表現	63.0	68.5	66.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

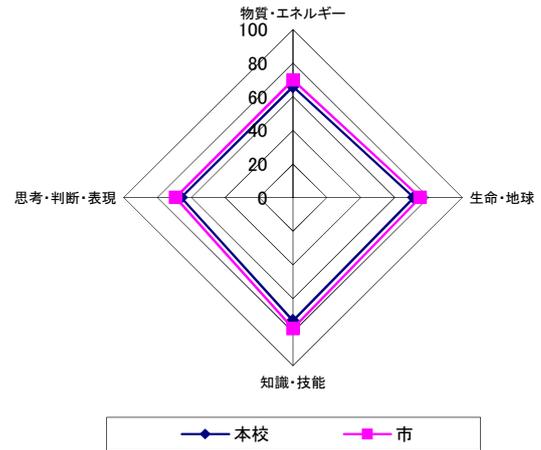
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は市の平均よりも低い。</p> <p>○問題場면을捉える際のテープ図や数直線に、低学年から発達段階に合わせて指導し定着させてきた成果もあり、分数の除法の文章問題では、問題に合う図や式を選択する問題の正答率は市の平均を5.1ポイント上回った。</p> <p>●小数や分数の計算問題の正答率では、市の平均を下回っており、特に分数の計算のポイント差が大きい。</p>	<p>・正しく計算できるようにするために、図や数直線などを用いて自分の言葉で説明する活動を取り入れる等、授業の中で丁寧に取り組ませ理解させるようにする。</p> <p>・家庭学習や朝の学習などに繰り返し練習問題に取り組ませる。</p> <p>・自分の間違いについて解答の訂正だけでなく、原因や対策についても考察させるようにする。</p>
図形	<p>平均正答率は市の平均よりも低い。</p> <p>○三角柱の展開図から重なる辺の長さを求める問題の正答率は、市の平均を2.8ポイント上回った。</p> <p>○合同な三角形の作図の問題の正答率は、市の平均と同等であった。</p> <p>●線対称の図形の対称の軸の本数を求める問題の正答率は市の平均を9.6ポイント下回った。</p>	<p>・図形は具体的な操作活動を取り入れたり、友達と考えを交流したりしながら、イメージ豊かに捉えられるようにしていく。</p> <p>・線対称、点対称な図形では、対称の軸や対称の中心の見つけ方を再度確認し、繰り返し学習させる。また、身の回りの対称な図形についても意識を向けさせ、発展的に捉えられるよう働きかける。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は市の平均よりも低い。</p> <p>○速さの単位で時速や秒速を分速に直す問題は、市の平均と同等であった。</p> <p>●混み具合の考察は、市の平均を11.3ポイント下回った。</p>	<p>・速さなど単位量当たりの大きさの学習では、生活に関わる場面に着目させ、児童自らが問題を発見して課題設定し、解決できるよう指導していく。</p> <p>・割合の学習では、他教科との関連性を図ったり、日常生活の場面などを題材とした問題等に取り組ませたりし、割合や百分率が日常生活に活用できるよさを実感させるようにする。</p>
データの活用	<p>平均正答率は市の平均よりも低い。</p> <p>○値に0が含まれる平均を求める問題の正答率では、市の平均を6.3ポイント上回った。</p> <p>○ヒストグラムの読み取りの問題の正答率では、市の平均を1.9ポイント上回った。</p> <p>●中央値の読み取りの問題の正答率は、市の平均を17.5ポイント下回った。</p> <p>●折れ線グラフや帯グラフの読み取りの問題の正答率は、いずれも市の平均を下回った。</p>	<p>・「データの見方」の学習では、身近な教材に着目させ、必要を感じながら統計的な問題解決の方法を学んでいけるように課題の設定を工夫し、主体的に学習できるようにする。</p> <p>・グラフの読み取りについては、グラフの意味や数値の分析の仕方を再度確認し、他教科や自分の生活の中にも生かせる等身近に感じさせながら学習させる。</p>

# 宇都宮市立晁宝小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	66.0	69.9	67.8
	生命・地球	71.3	75.1	73.7
観点別	知識・技能	73.3	77.8	78.4
	思考・判断・表現	66.0	69.4	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市の正答率と比べて低い。</p> <p>○「振り子のはたらき」「電流のはたらき」の基礎問題の正答率では、市の平均より低かったが、活用問題の正答率はほぼ同じか高い結果となった。実験方法を考えさせたり、さらに深く課題を追及させたりしたことが成果につながったと考えられる。</p> <p>●「ものの燃え方」では、石灰水の活用方法の問題の正答率は、市の平均より低く、課題があった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験器具や薬品の扱い方について、しっかり振り返りをしていく。</li> <li>・学習計画をよりしっかり立て、課題を自分で追及する時間を十分にとり、児童自らの予想や仮説に基づいて、観察、実験の計画や方法を考える学習活動を丁寧に行う。また、観察・実験から気付いたことや分かったことを全体で話し合う活動に十分に時間をかけながら学習のまとめを行うなど、問題解決の力を育成できるような授業を展開していく。</li> </ul>
生命・地球	<p>平均正答率は、市の正答率と比べて低い。</p> <p>○「月と太陽」では、基礎問題、活用問題の正答率は、ともに市の平均を下回るかほぼ同じではあったが、全国平均と比べるとやや上回った。観測を広いところでじっくり取り組ませたことが結果につながったと考えられる。</p> <p>●「動物のからだのつくりとはたらき」の問題の正答率は、市の平均より低く、課題があった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験や観察を行う際には、実演にあわせて、デジタル教科書の動画などで器具の使い方を確認させ、器具を安全に正しく使えるように指導していく。</li> <li>・授業や単元終わりの振り返りでは、しっかり時間をとり、基礎的内容の把握をしっかり指導していく。</li> </ul>

## 宇都宮市立晁宝小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎・基本の定着を目指した学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の準備物、発表の仕方、話の聞き方など学習態度の指導の徹底</li> <li>・朝の学習の時間の確保(漢字・計算)</li> <li>・発達段階に応じた家庭学習の内容の提示と習慣化のための支援</li> <li>・個に応じた支援・指導の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への取り組みについての設問の肯定的回答の割合は、学年によってばらつきがあり、全校で共通理解して指導していく必要がある。</li> <li>・国語の漢字を読み書き、算数の計算問題の平均正答率は市の平均正答率より低く、課題があった。引き続き、国語・算数の基礎・基本の確実な定着を目指し、授業において個に応じた支援を行うとともに、朝の学習や家庭学習において繰り返し学習を、単元テストの結果などから児童の実態に合わせて計画的に行っていく。</li> <li>・記述問題にも課題があり、日々の各教科の授業において自分の考えや学習のまとめ、振り返り等を文章でまとめることを丁寧に指導していく必要がある。</li> </ul>
学習指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領に基づいた授業改善を目指した校内研修の実施(研究教科:算数 主体的・対話的で深い学びにつながる学習活動の工夫)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「進んで学習に取り組んでいる」等の学習に対する気持ちや態度についてのアンケートの結果は、学年によってばらつきがあった。また、6年の学力調査の結果は、4教科の平均正答率が市より低く、課題があった。今後も引き続き、学習指導の工夫について校内研修を行い、全ての学年において学習指導要領に基づいた授業の実現を目指していく。</li> </ul>

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・基礎・基本の確実な定着を目指して、朝の学習や家庭学習において繰り返し学習(宮っ子ステップアップ、A Iドリルの活用)を計画的に実施する。
- ・学習指導要領に基づいた授業を行えるよう、各教科の授業改善を図っていく。(校内研修の充実と一人一授業の実施)
- ・分かりやすい授業の実現や個に応じた指導の充実を目指して、授業や家庭学習等において、一人一台端末を含むICT機器を効果的に活用できるよう、校内全体で研究していく。